

入野小学校 校長室だより

2015. 6. 26(金) No. 12 文責：芝

トップアスリートの魅力

本当に「梅雨そのもの」といった毎日です。毎朝のように厚い雲に覆われ、「今日の雨はどうなのか」に気を取られているうちに夏至が過ぎていました。私たちは最も太陽の力が強く、最も昼間の長い毎日を過ごしています。私は、こういう明るく感じる時期が好きですが、皆さんはいかがですか。(雨ばかりの毎日は好きではありませんが…)

夏至直前の19日(金)に、本校で「トップアスリート(卓球)派遣授業」という事業が行われ、4～6年生の子どもたちが参加しました。その様子は夏至の日の高知新聞にも紹介されていましたが、かなり子どもたちにとってインパクトのある内容だったようです。今、「ようです」の言葉を使ったのは、私は出張のために参加できなかったからです。せっかくの機会だったのに、とても残念でした。ですから、その日の写真や子どもたちの書いた感想文を読ませていただいて実際の授業内容を感じ取ったことでした。

子どもたちの感想を読んでいると、本当にトップアスリートがもつ魅力が伝わって来るようでした。ご紹介します。

私は卓球のトップアスリートの高木和選手と大矢選手と交流してみて、改めて卓球の楽しさを感じることができました。2人が打つラリーは、とても速く、決まった場所に打っていて、とてもすごかったです。(中略)

私自身、卓球の経験が少しあって、あのラリーを見たので後期に卓球クラブに入りたいと思いました。最後に2人の試合が生で見られました。私はこの試合を見て、さらに卓球のすばらしさ、楽しさが分かりました。最後の2人のメッセージは、将来、何かに役立てたいと思いました。

(前略)卓球はちょっと地味な印象があったけど、とても楽しそうにやっていたので、やってみようと思いました。大矢選手に正面(6年の方)にボールを打ってもらいました。キャッチはぜんぜんできませんでした。横から見るのとちがって、すごくボールが速く感じました。どうやって打っているのかなあとと思いました。身近で卓球を見て、ちょっと興味がわいたのでやってみようと思ったし、いい機会だったと思います。

《身乗り出すように見学》



《子どもたちとミニゲーム》



来て下さった両選手の所属チーム(東京アート)は、昨年度の日本卓球リーグの前期・後期含め、主要大会の全て優勝という強豪チームだそうです。厳しい練習を重ねている選手たちですから、子どもの感想にもあるように、最後のメッセージにも心に響く「何か」があったことだろうと思います。